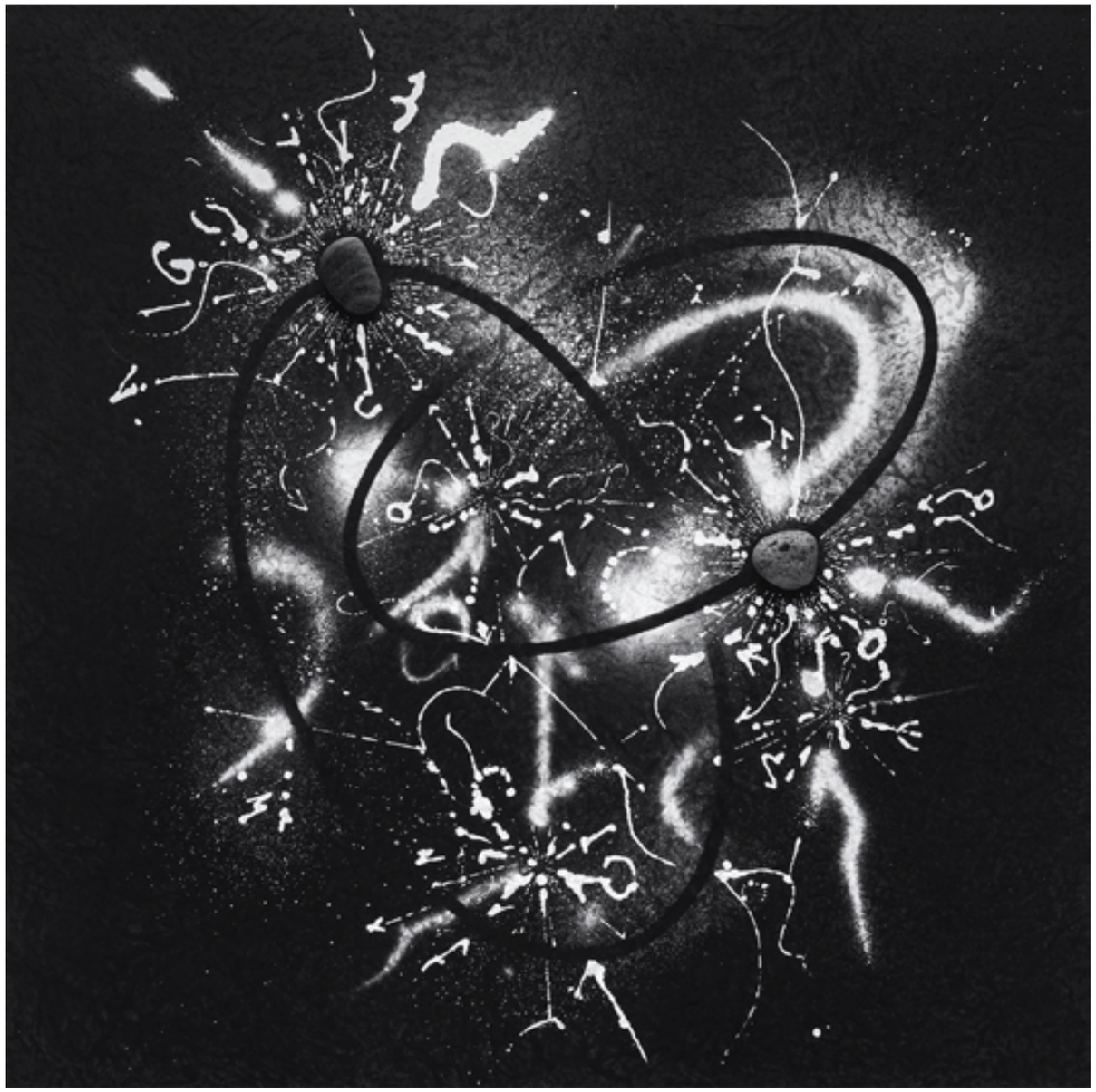


《隕石が書く〈S/M〉#02》 2023　キャンバスに溶岩（ボルト止め）、シルバーインク、土、アクリル
« The Writing of Meteors〈S/M〉#02 »　Lava stone (bolted), silver ink, earth, acrylic on canvas　Photo by Chen Hsin Wei　© Hiraku Suzuki Studio

《Constellation #23》 2018　キャンバスにシルバーインク、土、アクリル、墨汁　個人蔵
Silver ink, earth, acrylic and sumi ink on canvas　Private Collection　Photo by Ooki Jingu　© Hiraku Suzuki Studio

2023. 9.16 sat. – 12.19 tue.

休館日：毎週月曜日（ただし9/18、10/9、11/27、12/11、12/18は開館）
9/19（火）、10/10（火）、11/13（月）～23（木）、12/4（月）～8（金）、12/14（木）
開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
会場：展示室4、5
観覧料：一般300（240）円、大高生150（120）円
＊（　）内は20名以上の団体割引料金
＊中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日（10/28）に観覧される方は無料

主催：群馬県立近代美術館
協賛：株式会社ジンズホールディングス、アニエスベージャパン株式会社、株式会社ヤマト
協力：白井屋ホテル、rin art association

Closed on Mondays
(except Sept. 18, Oct.9, Nov. 27, Dec. 11, 18),
Sept. 19, Oct. 10, Nov. 13–23, Dec. 4–8, 14
Open Hours: 9:30-17:00 (tickets available until 16:30)
Venue: The Museum of Modern Art, Gunma, Gallery 4, 5

Organized by The Museum of Modern Art, Gunma
Sponsored by JINS HOLDINGS Inc., agnès b. Japan Inc.,
YAMATO CORPORATION
Cooperated by SHIROIYA HOTEL, rin art association

群馬県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA

JINS　agnès b.　株式会社ヤマト

［関連イベント］

・ライブドローイング＋トーク　Live Drawing + Talk
9.16 (Sat.) 15:30–16:00　展示室内　［要観覧券・申込不要］

・クロストーク　鷲田めるろ（十和田市現代美術館館長／東京藝術大学准教授）× 鈴木ヒラク
Cross Talk: Meruro Washida (Director, Towada Art Center /
Associate Professor, Tokyo University of the Arts) × Hiraku Suzuki
11.4 (Sat.) 14:00–15:30　講堂　定員100名（先着順）　［聴講無料・申込不要］
主催：群馬県立近代美術館友の会

・ライブドローイング　ゲスト：FUJI||||||||||TA（サウンドアーティスト）
Live Drawing with FUJI||||||||||TA (Sound Artist)
12.2 (Sat.) 15:30–16:30　展示室内　［要観覧券・申込不要］

・学芸員による作品解説会　Gallery Talk by Curator
10.8 (Sun.)、11.8 (Wed.)　各日14:00–15:00　展示室内　［要観覧券・申込不要］

［同時開催］

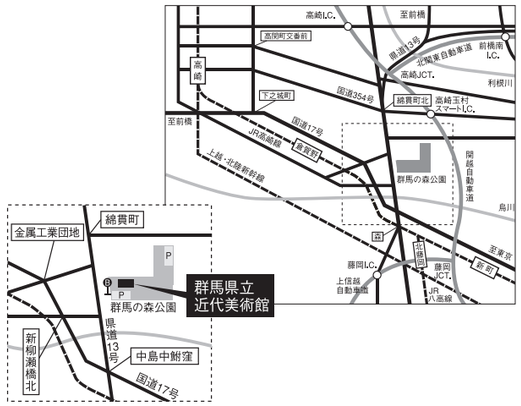
創作において自由なる競創　－19、20世紀の芸術家とポスター　9月16日（土）～11月12日（日）

［群馬県立館林美術館のご案内］

堀内誠一　絵の世界　10月7日（土）～12月17日（日）

［交通案内］

〇電車・バス
JR高崎線・湘南新宿ライン・上野東京ラインまたは上越・北陸新幹線で高崎駅下車（新幹線は東京駅より約60分）。JR高崎駅東口より、市内循環バスぐるりん「群馬の森線」9系統（約38分）、10系統（約26分）、または「岩鼻線」15系統（約25分）で、いずれも「群馬の森」下車（200円）。
〇タクシー
JR高崎駅東口より約20分。JR新町駅より約10分。
〇車
関越自動車道の「高崎玉村スマートI.C.」（ETCのみ）より、国道354号を高崎方面に向かい、県道13号を左折し約8分。上信越自動車道の「藤岡I.C.」高崎方面出口より出て、県道13号を前橋方面に向かい約10分。北関東自動車道の「前橋南I.C.」より、県道13号に出て藤岡方面に向かい約15分。県立公園「アイ・ディー・エー群馬の森」大駐車場をご利用ください（無料）。

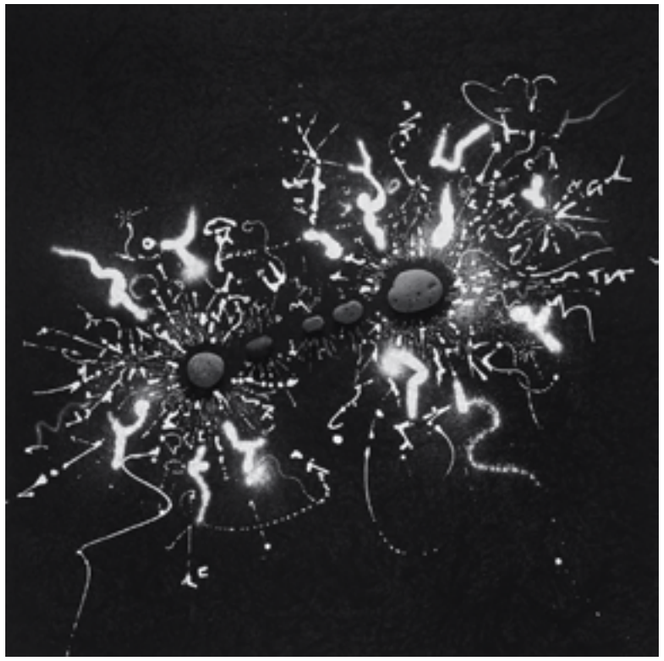


群馬県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA

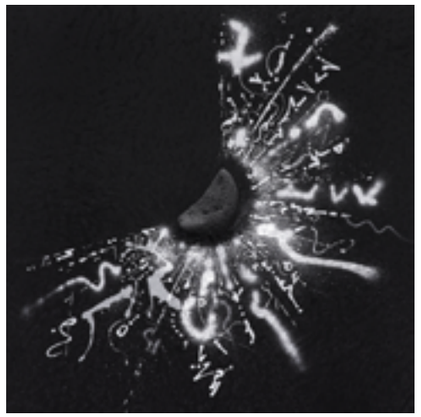
〒370-1293 高崎市綿貫町992-1　992-1 Watanuki-machi, Takasaki-shi, Gunma 370-1293　Tel. 027-346-5560　Fax. 027-346-4064　https://mmag.pref.gunma.jp

Hiraku Suzuki: Excavation Today

鈴木ヒラク 今日の発掘



《隕石が書く〈S/M〉#03, 〈S/S〉#06, 〈S/S〉#9》
2023　キャンバスに溶岩（ボルト止め）、シルバーインク、土、アクリル
« The Writing of Meteors 〈S/M〉#03, 〈S/S〉#06, 〈S/S〉#9 »
Lava stone [bolted], silver ink, earth, acrylic on canvas　Photo by Chen Hsin Wei



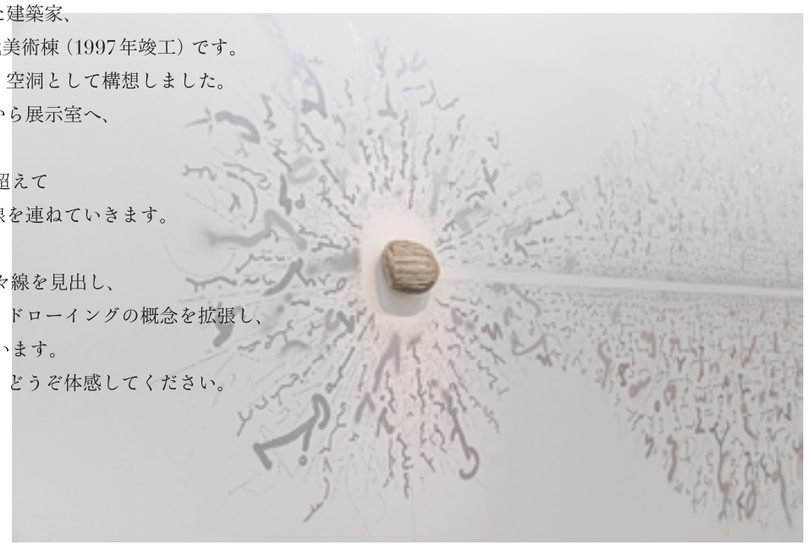
鈴木ヒラクにとっての線は、言葉と絵、こちら側とあちら側、自己と他者をつなぎ、相互浸透を促すメディアです。
線をかく行為＝ドローイングは、森羅万象にあまねく存在する（見えない）線の発掘であり、
さらに線をトンネルのような中空の通路、あるいはチューブ（管）ととらえれば、
人間と自然、主体と客体といった二項対立を越え、世界あるいは宇宙と一体化するための手段となります。

この展覧会は、最新シリーズ〈隕石が書く〉（2023年）40点による大規模なインスタレーションと、
近作である〈Constellation〉（2018–21年）、〈Interexcavation〉（2019年）各シリーズからの作品、
そして現地制作される壁画などを組み合わせた、鈴木ヒラクにとって過去最大規模の個展となります。

フランスの思想家ロジェ・カイヨワの著書『石が書く』（1970年）を参照したタイトルが示すとおり、
〈隕石が書く〉は、宇宙空間を移動する石が反射する光の軌道など様々な記号を集積し、
作家が身近な環境で拾った匿名の石が孕む膨大な情報と呼応しながら、
人類史を遙かに超えた時間軸において生成され続ける線を新しい言語として画面に刻み込む試みです。

展示会場は、昨年末惜しくもこの世を去った建築家、
磯崎新（1931–2022）設計による当館の現代美術棟（1997年竣工）です。
磯崎は当館の建物を、作品が通り抜けていく空洞として構想しました。
それと響き合うかのように、鈴木は展示室から展示室へ、
描くこと／書くことの起源と未来を求めて、
人類最古の壁画が残された洞窟から人知を超えて
生成と消滅が繰り返される宇宙空間へと、線を連ねていきます。

過去と現在が交差する瞬間＝発掘として日々線を見出し、
描く／書く行為を積み重ねる鈴木ヒラクは、ドローイングの概念を拡張し、
現代における表現の可能性を更新し続けています。
その現在地としてのインスタレーションを、どうぞ体感してください。



《Excavation of a Tube》 2019　壁に石、シルバーインク　La Panacée（モンペリエ、フランス）での展示風景（参考図版）
Stone and silver ink on the wall　Exhibition view at La Panacée (Montpellier, France)　Photo by Nadim Zeraïa

鈴木ヒラク　Hiraku Suzuki

1978年宮城県生まれ、神奈川県育ち。
2001年武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。08年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了後、
シドニー、サンパウロ、ロンドン、ニューヨーク、ベルリンなど各地で滞在制作。
描くと書くの間を主題に、平面・彫刻・映像・パフォーマンス等によりドローイングの概念を拡張する制作活動を展開している。
09年「愛についての100の物語」（金沢21世紀美術館）、
10年「六本木クロッシング2010展：芸術は可能か？」（森美術館）出品。
13年「日産アートアワード 2013」ファイナリスト選出。
17年「ヒツクリコ ガツクリコ ことばの生まれる場所」（アーツ前橋）出品。同年「FID Prize」（パリ）グランプリ受賞。
19年「MOTアニュアル2019　Echo after Echo：仮の声、新しい影」（東京都現代美術館）出品。
16年より国際的なドローイング研究プラットフォーム「Drawing Tube」を主宰。
音楽家や詩人らとのコラボレーションやパブリックアートも多数手掛ける。
作品集に『GENGA』（2010年）、『SILVER MARKER』（2020年）など。
作品は金沢21世紀美術館、東京都現代美術館のほか、
アニエスベー・コレクション（フランス）やロンドン芸術大学（イギリス）などに収蔵されている。
現在、東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス准教授。
本展にあわせて初のエッセイ『ドローイング　点・線・面からチューブへ』（左右社）が刊行される。
http://hirakusuzuki.com/

ドローイングワークショップ風景　Photo by Mariana Kameta
All images © Hiraku Suzuki Studio

（右から）《Interexcavation #01, #02, #06, #05, #21》 2019　キャンバスにシルバーインク、土、アクリル、顔料　東京都現代美術館蔵　「MOTコレクション 光みつる庭／途切れないささやき」（東京都現代美術館）での展示風景　2022
Silver ink, earth, acrylic, pigment on canvas　Collection: Museum of Contemporary Art Tokyo　Installation view at MOT Collection – Garden of Light / Continuing Whispers (Museum of Contemporary Art Tokyo)　2022　Photo by Masaru Yanagiba